

一人一人が夢をもち 未来を生きる力のある子

平成29年度が始まりました。今年度より校長に着任いたしました辻雄二です。本校は、琉球大学の首里キャンパスから千原キャンパス移転に合わせ1982年に開校し、今年で36周年を迎えます。

この間、一貫して琉球大学教育学部との緊密な連携による先導的・実証的な研究を積み重ねると共に、沖縄県の教育界との連携協力の下、モデル校として教員の資質・能力の向上と学校教員養成の責務を担って参りました。

国立大学法人附属の小学校である本校は、①教育研究 ②教育実習 ③地域の教育への協力を使命として、子ども達の尊い「命」と限りない「可能性」を拓き、「夢と希望」を育むために、常に学ぶ主体である子どもに価値判断を置き、教師はその使命を自覚し、自ら研鑽を積み、質の高い指導を実践することで、保護者をはじめ教育行政、地域から信頼される学校教育の充実に努めていくことを基本理念としています。

俳人松尾芭蕉の提唱した「不易流行」。これは俳諧に対して説かれた概念ですが、学問や文化、そして人間形成にもそのまま当てはめられ、教育の場でもよく使われる言葉です。折々の課題に学び応えつつ、そこに新古を超え、永遠の生命を持つ本質的な姿を洞察する力を養う。すなわち、学校は自律的な教育実践力を培う場として、子どもたちの多様な個性や文化的背景を活かした「豊かな学び」を創造し、多層的な「つながり」の中で、子どもたちの確かな学力を育てていく、そんな「つながりあう知」の楽しさや喜びを大切にしていきたいと考えます。

今年度も教職員一丸となって邁進して参りますので、引き続き大学関係者、保護者の皆様、そして地域の方々の御理解と御協力を宜しくお願い致します。

2017年4月

国立大学法人琉球大学教育学部附属小学校
学校長 辻 雄二